

顧客を守る！	▶顧客の生活を支える	レジリエンスに特化した商品やサービスをつくる		
023	災害備蓄の共同保有・集中管理サービスにより備蓄のシェアリングを実現	取組主体		
		株式会社 Laspy		
		従業員数	想定災害	実施地域
		5人	全般	東京都等

・都心部の空きスペースを確保し、企業・法人やマンション等の防災備蓄を集中管理・共同保有することで、災害備蓄シェアリングを実現。大災害発生後の食糧争奪戦など社会不安の減少を目指す。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

都心部の空きスペースを確保し、近隣の企業等で災害備蓄シェアリングを実現。

- ・株式会社 Laspy は、建物単位・エリア単位での備蓄に関する集中管理・保管を行う防災備蓄サービス「あんしんストック」を提供している。同社は、2021年2月に設立され、同年4月よりサービスを開始した。
- ・法人や各種団体、個人などの主体が専有している貴重なスペースを利用した「個別の防災備蓄」から脱し、集中管理・共同保有する仕組みを構築している。
- ・2011年の東日本大震災を契機に、東京都は条例で企業等に対し、従業員の3日分の飲料水や食料等の備蓄に努めるよう求めている。防災備蓄を販売する商社や小売店は多くある。しかし、同社は、防災備蓄に関する課題として、①スペースの確保、②備蓄品の管理（賞味期限管理や入れ替え作業など）、③購入費用（数年おきに忘れてきた頃にやってくる大きな支出）の三点があると認識している。そのため、防災備蓄を販売することだけでは顧客の課題解決に繋がらないと考えている。
- ・同社は、企業の備蓄のネックとなるスペースや費用の課題を解決するため、都心部の空きスペースを確保し、近隣の企業等に備蓄庫として利用してもらうサービスを展開している。具体的には、従業員やマンション住民等の3日分の防災備蓄を、サービス利用者（企業等）の近隣施設にて同社が集中管理する。備蓄倉庫は、貸倉庫や鉄道の高架下、遊休スペース等を借り上げ整備している。これにより、平常時の備蓄管理からの解放、関係者の備蓄スペース圧縮、備蓄準備コスト低減を実現させている。
- ・本サービスは、まちづくりに関係するデベロッパー、建設会社、不動産管理会社と協業し、建物やエリア単位で防災備蓄庫の設置や、共同利用の仕組みを提供している。これにより、災害時において入居者等に円滑に備蓄品を提供することが可能となっている。また、関係者の備蓄マネジメントコストの低減にも寄与している。



共同備蓄倉庫の利用イメージ

創業時の思い：コミュニティに必ず3日分の備蓄がある状態を作れないか

- ・同社代表の藪原氏は、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が発出された際、身の回りから食糧や生活必需品、マスクや消毒液やトイレトーパーなど多くの物が買い占められ入手困難になるといった状況を目の当たりにした。こういった社会不安の状況を、備蓄事業によって解決したいとの思いから同社を創業した。
- ・リスクマネジメントの領域は将来のリスクや損失回避のために、先行して費用を支出する性質があり予算削減の対象にな

国土強靱化

りやすい。そのため、市場の大きさを説明するのに苦労した。いざとなれば、避難所に行けば食べ物はどうにかなるのだから用意しなくても良いと割り切る組織も多い。例えば、東京都帰宅困難者対策条例などによって3日分の備蓄が要請されていたとしても、そのためのスペースや予算の捻出は簡単ではないと考えた。また、スタートアップとして、大企業ですらもやれてこなかった難易度の高い性質がある事業であるため、「スタートアップにできるわけがない。やれるはずがない」という声に常に立ち向かう必要もあった。

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- ・同社は、防災備蓄品の寄付スキーム構築や、防災イベントを開催し防災備蓄品の試供などを行っている。大企業とのコラボレーションによって実施する事が多い。2022年2月には、株式会社丸井とのコラボレーションにより、上野マルイにて、「おいしさ」や「栄養」といった、防災備蓄に忘れられがちなポイントにフォーカスした防災イベント「災害×“食”～あなたの知らない防災食の世界～」を開催した。
- ・NHK おはよう日本やその他ニュース、日経新聞やその他メディアなどの取材や取り上げられる事が増え、防災備蓄保有の新しい在り方として広がりが出てきた。創業後2年であり、まだこれからという部分が多いが、まちづくりに関連する事業会社からの協業の申し出が相当に増えている状況となっている。



防災イベントでの試供

3 現状の課題・今後の展開等

- ・本事業は、ベンチャーキャピタル等からの出資を得る事で成長をする事が基本と考えるが、華々しいテーマを取り扱っているわけではないことから資金調達に苦労している。スタートアップ特有でもある資金力の低さがあり、本来のスピード感がでない事が課題である。
- ・現状は都内を中心に協力的な不動産デベロッパーとの協業によって備蓄庫の設置が数件完了しているものの、国や自治体ともコラボレーションして備蓄共同保有の仕組みを広め、自助・共助の厚みを増すよう取り組みたい。
- ・そのため、都内の建物やインフラへの設置事例を増やし、全国主要都市部への展開を目指す。そして、オフィスやマンションのみならず、さまざまな生活インフラ（例：ガソリンスタンド、郵便局等）との連携を図っていく。

4 周囲の声

- ・Laspy は災害備蓄の管理をという一見ニッチな領域で、自然災害に対するBCP対策や都心を始めとするオフィススペースの有効活用をといった多くの企業や自治体に共通する課題に対してソリューションを提供しているパイオニア的な存在と認識しています。（関係者）

担当者の声

・防災備蓄の保管管理は、オフィスやマンションなどの限られた空間を活用せざるをえない。また、管理が行き届かないという背景から実装が充分に進んでいない状況です。Laspy は、こうした悩みの解決に向けて防災エリアマネジメントを提唱し、建物単位・エリア単位での備蓄庫集中管理インフラである「あんしんストック」をご提案しています。貴重なスペースを占有しながらの備蓄品を保有・管理する状況からの脱却を支援します。また、まちの遊休スペースや有効に使われていない場所を備蓄庫に活用する事にも取り組んで言います。これにより、安く、簡単に、確実に、必要な人数分だけ3日分の備蓄を保有することができるようになります。わたし達は、貴重な都市空間や遊休スペースを活用し備蓄スポットへ転換します。SDGs 11番の住み続けられる街づくりを実現し、災害に負けない街づくりを実現させます。

問合せ先

株式会社 Laspy 法人番号：7010001215713
TEL：050-5526-7102 E-Mail：info@laspy.net

動画



サイト URL

